



美豆だより

特別号

平成26年3月19日
京都市立美豆小学校
校長 袖岡 良彦



後期の学校アンケートの結果を報告させていただきます。多くの保護者の方々には、お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。アンケートの結果は、本校の取組と合わせて、「学校運営協議会」にも報告させていただき、課題のご示唆や解決に向けての取組などのご意見をいただきました。今年度の取組を総括し、学校運営に生かしていきます。

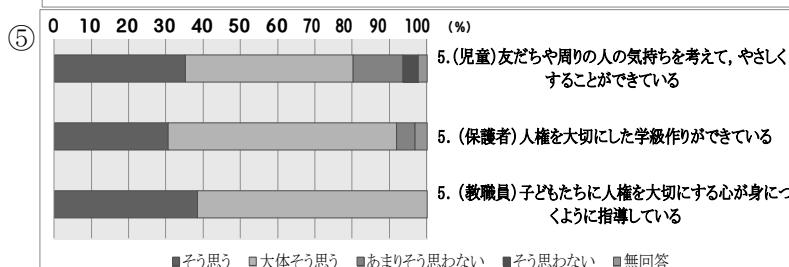
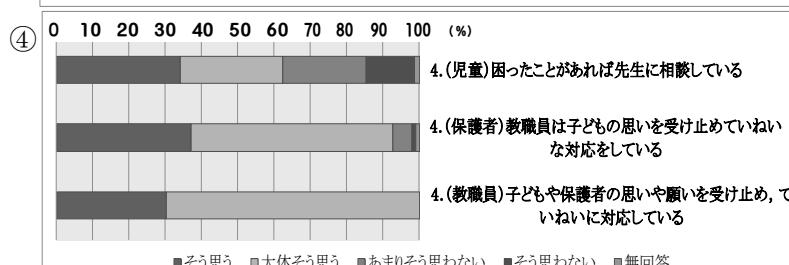
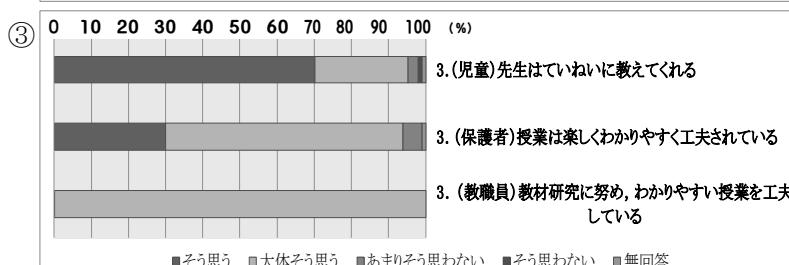
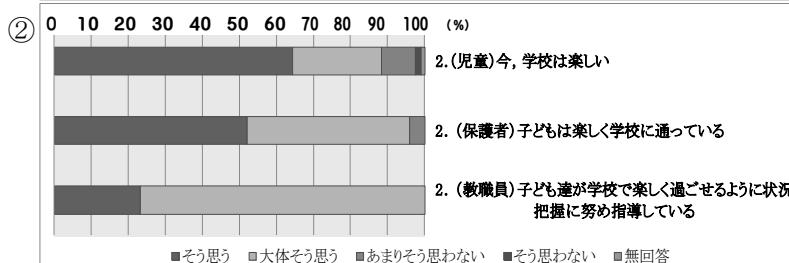
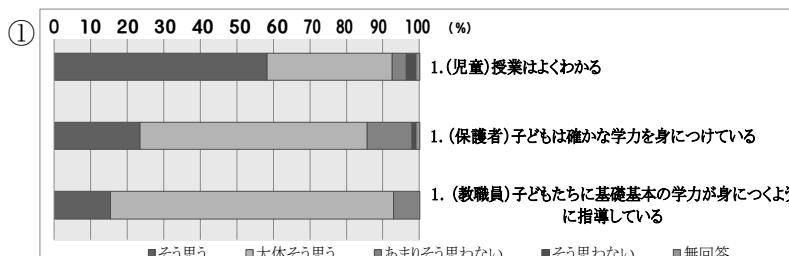
1. 実施アンケート

- ①児童アンケート(全児童対象) 実施期間 2月14日～19日
- ②保護者アンケート(保護者対象) 実施期間 2月14日～19日(回答数286名)
- ③教職員アンケート 担任および教科指導教員

2. アンケート結果と考察

上記アンケート調査の結果を報告します。3つのアンケートで、関連する項目ごとにグラフに表示しました。

グラフは、全体を100パーセントとし、左から順に、「そう思う」・「大体そう思う」・「あまりそう思わない」「そう思わない」・「無回答」の割合を示しています。



【学力向上にむけて】

◇子どもたちにわかる喜びを

①の「授業理解」と③の「学習指導」の評価では、前期と比べると児童と保護者の「そう思う」の値が増加した。前期では「大体そう思う」としていた方が、「そう思う」と言い切れるようになったことは、嬉しい結果です。ジョイントプログラムの5・6年の成果が「そう思う」の値の増加とつながっているのではないかと考えられます。今後も「わかった」と思える授業、取組を行っていきます。

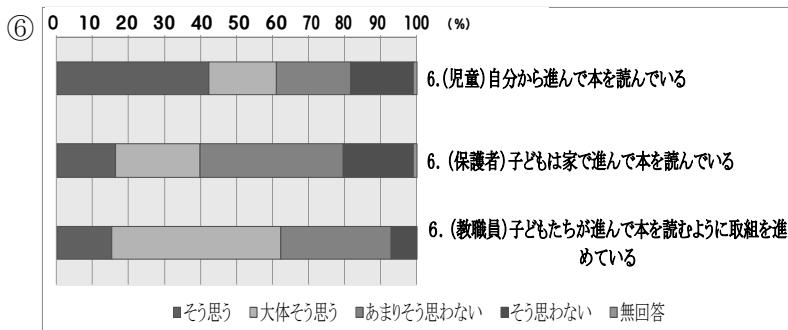
◇身に付けた学力を定着させる

また、①と③の評価において、児童・保護者の「そう思う」「大体そう思う」がほぼ9割を占めています。児童が授業でのわかる喜びを感じているからこそですが、5・6年のジョイントプログラム、3・4年のプレジョイントプログラムに出題される応用的な問題では、どの学年も苦労している様子がうかがえます。日々の学習内容を定着させ、日をおいても学力として活用できるように反復的学習に取り組んだり、様々な問題に出会い既習内容を活用して試行錯誤しながら解決していくような学習をしたりしています。

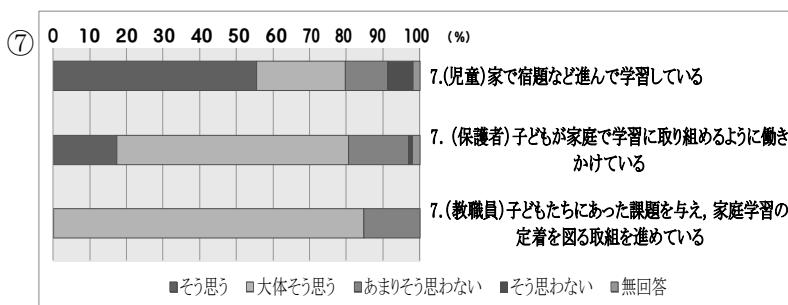
◇あらゆる教科に必要な力

⑥の「読書について」の評価は、前期とほぼ同様の結果でした。ジョイントプログラムの考察の中で挙げた「読解力」「言語能力」の向上には、読書習慣をつけることが不可欠だと考えます。前期の結果の対策として挙げた読書の時間の位置づけや本を手に取りやすい読書環境についての家庭との連携をさらに深めていきます。ま

【右ページへ】



た、図書室のリニューアルが完了し、「本を読む」を中心としたスペースと「情報を集める（調べ学習）」を中心としたスペースに分けました。学習効果が高まる図書館利用をさらに模索していきます。探究的な活動において、情報を集め、活用していく力を図書室で育んでいきます。

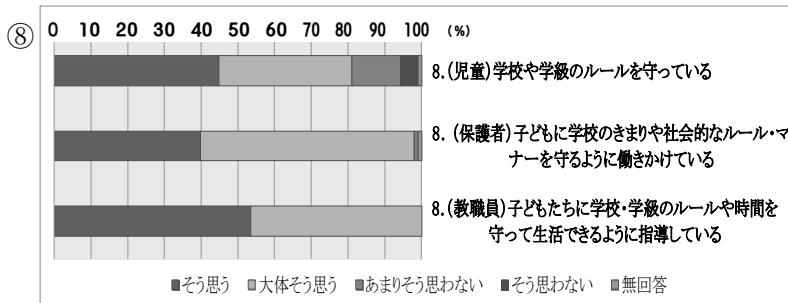


【生活の様子から】

◇地域・家庭・学校の協力で学校に楽しく通う子どもを育てる

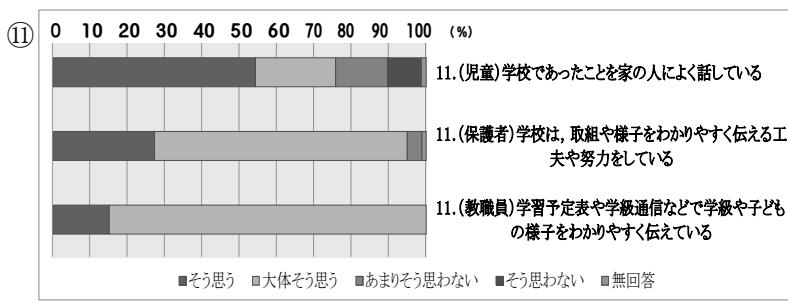
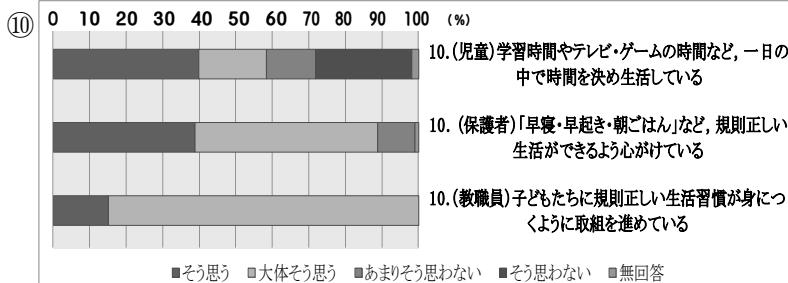
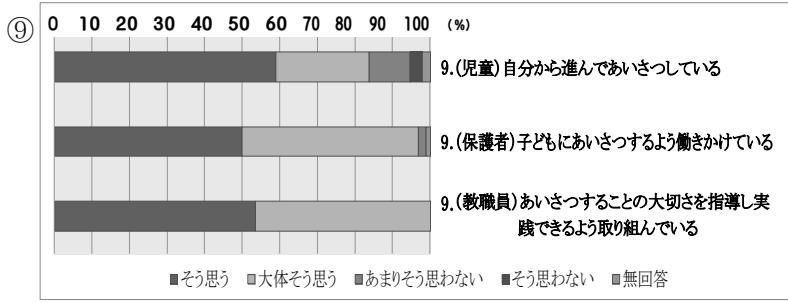
②の「楽しく学校に通う」の評価では、児童・保護者・教職員とも「そう思う」の値が前期を上回りました。学校・家庭・地域が連携し、児童の思いを受け止め、共感し、熱意を持って接してきた成果だとれます。

前期を上回った理由は、児童の日常の様子からうかがい知ることができます。思春期に入る難しい年代と言われる高学年ですが、無邪気に遊び、物事に真剣に取り組む、素直な子どもらしい姿は、この結果に表れています。そして、それは学習にも少なからず良い影響を与えていていると言えます。



◇地域・家庭・学校の協力で学校に楽しく通う子どもを育てる

⑧の「きまりを守る」の評価では、児童の「そう思う」「大体そう思う」の値が減り、「そう思わない」の値が増えています。それに対して教職員の「そう思う」の値が大幅に増えています。前期の結果を踏まえて、規範意識にかかわることに対して、指導しきることを意識しました。その結果、今までルールを意識していなかった児童が、ルールについて意識だし、その意識が「ルールを守れていなかった」という気づきとなって、児童の値にあらわれているのだと考えます。粘り強く指導していくことでルールを意識し、「守ろう」と思うことができる児童を育てていきます。それらの児童を認めていくことで初めて「そう思う」の値が増えていくはずです。



美豆小ホームページもご覧ください。

美豆小学校HP QRコード



3. 分析を終えて

学習集団としての規範意識の高まりが見られます。担任と児童との信頼関係を築けており、落ち着きのある学習環境が保たれています。朝会や学年集会などでじっくりと落ち着いて話を聞くことができるようになっています。

学校では、様々な行事・取組があるが、それらの活動にいかに意義づけをしてかを教職員が常に念頭において教育活動を行っています。5年生の花背山の家長期宿泊活動、6年生の大文字駅伝大会に向けた取組等において、その意義づけを児童にしっかりと伝えたりとしました。その結果、児童が自分たちのよさを発揮し、協力や努力の大切さを知り、達成感・成就感を得られる取組となりました。それは、子どもたち自身の糧となり、また美豆小の良き伝統となっていきます。児童の様子から様々な取組の中で着実に成長していることを感じました。それは学習の成果に少なからず影響を与えています。

良い手本を得たことを学校の財産にし、いかに下級生に伝えていくかが今後の課題です。

分析を終え、そこから見えてきたこと、すべきことを以下のようにまとめました。今後も学校・家庭・地域が一丸となって子どもの健やかな成長を見守っていきたいと思いますのでご協力よろしくお願ひします。

- 各取組のねらいを明確にすることで、子どもと大人の信頼関係を築くことができ、取組の成果として表れてきた。それが美豆小の伝統となるようにしていく。
- 問題解決に必要な基礎的学力を定着させるため、継続的・反復的な取組を行う。
- 身に付けた学力を様々な場面で使える応用力を育む。
- 規範意識を高める指導を徹底し、ルールを意識し、守っていこうとする態度を養う。
- 地域・家庭・学校が連携をとて子どもたちに接することで、よりきめ細かくぶれのない指導ができ、美豆の子どもたちの心身ともに健やかな成長につながる。

4. 「学校運営協議会」による学校関係者評価（外部評価）

学校評価に関する「各アンケートの結果と分析」や「本校の取組」を学校運営協議会理事会に報告し、下記のようなご意見、評価をいただきました。

学校運営協議会 理事会
平成26年 3月17日
19:00~
美豆小学校応接室

【生きる力・生活力をつける】

兄弟が多かった昔とは違い、今の子どもたちは、きちんと大人に面倒を見てもらっている。幸せなことだが、親が世話を焼きすぎている部分も見受けられる。子どもたちの生きる力・生活力を育てるために、「要求の際は、単語ではなく、文で告げさせるようにする」「家事等、できることはどんどんさせる」ことが大切である。

【挨拶・返事ができる子に】

挨拶がきちんとできるようになってきた。いろいろなことにまじめに取り組めるようになってきた。

習い事の指導の際に気をつけているのがきちんと返事をするようにさせることだ。挨拶と同じようにきちんとした返事をすることで、自分の意思が相手に伝わるし、気持ちよいコミュニケーションにつながる。

【発達段階に応じた評価を】

学校での様子を見ると、子どもたちの規範意識がしっかりと育ちつつあることが分かる。それが放課後になると少し様子が変わる。児童館では、1年生は、「きまり」の認識はまだまだ持っていない。2年生は、少しずつもてるようになっている。3年生は、もててはいるのだが反発してしまうこともある。そのように発達段階に違いがあるので、児童アンケートを低・中・高に分けてみてはどうか。そこから見えてくることがあるかもしれない。

【子どもたちの心を読み取る】

子どもたちは落ち着いた様子を見せるようになってきた。一人一人の子を見ると、挨拶をきちんとし礼儀正しい子たちだが、数人集まると集団心理がはたらくのか少し気になる様子がうかがえる。時と場所をわきまえることを子どもたちが身に付けていくことはとても大切だが、落ち着いているように見えるが実は心に悩みなどをもっているのではないかと心配するときもある。大人が注意深く子どもを見ることが必要だ。

学校・家庭・地域の連携・協働



- ・地域ぐるみの学校づくり、地域と共に歩む学校
- ・教職員が力を合わせ、計画的、継続的な取組を行う学校
- ・子ども達が楽しく学び合う学校

